

*** 今日の健康（4月） ***

< 結核（その1） >

結核は世界の三大感染症の一つで、日本は欧米の先進国に比べると感染者の割合が高い水準にあり、予防と早期発見、早期治療が必要です。

過去に日本では 1950 年までの長い間死亡順位第 1 位で、「国民病」と呼ばれて恐れられていました。最近の統計によると平成 29 年に、新たに結核患者として登録された者の数（新登録結核患者数）は 16,789 人で、前年より 836 人(4.7%)減少しています。

結核罹患率（人口 10 万対）は 13.3 であり、前年と比べ 0.6 ポイント減少し日本の結核罹患率は近隣アジア諸国に比べ低い水準にあり、米国等他の先進国の水準に年々近づいています。

<感染の経路と発病>

結核は、人から人に感染する病気で、発症した人の結核菌を含んだ咳や痰が乾燥して、微粒子状に空気中を漂い、その微粒子を含んだ空気吸い込むことで感染します。結核菌を吸い込んでも必ず発症するとは限らず、感染しても発病する人は 10%程度です。免疫力が弱っていたり、抵抗力が弱っていたりする高齢者は吸い込んだ結核菌が増殖して発症することがあります。食器などの物から結核がうつることはありません。

日本では、肺結核が結核全体の約 80%を占めています。結核には肺に発症する肺結核と肺以外の臓器リンパ節、腸、骨などにも感染します。

<症状>

肺結核は肺に様々な炎症を起こし、咳、痰、発熱が長期間続きます。また、体重減少、食欲不振、寝汗などの症状もあります。さらに進行すると、だるさ、息切れ、血痰、咯血、呼吸困難から死に至ることもあります。



<検査>

胸部エックス線検査、胸部 CT 検査で特徴的な影を見つめます。ツベルクリン検査や血液検査（QFT 検査など）で分かる場合があります。喀痰を調べ、顕微鏡観察や培養（6 週間かかります）で菌があれば診断になります。

<治療>

結核と診断されたら、抗結核薬の内服治療をします。4 種類の治療薬と副作用予防の薬を内服するため、多くの薬を毎日飲むことになります。治療は 6 ヶ月（2 ヶ月治療したら 2 種類の治療薬に減ります）間と長く、途中でやめずに治療終了までしっかり続けます。治療が中途半端になると薬剤耐性結核となり、薬が効かなくなってしまう。

結核菌がたんから大量に出ている場合には菌が減ってくるまで結核専門施設で入院治療をします。